

逆境のとき はぐるまに 流れを



小規模通所授産施設 ↓ 就労継続支援B型へ

グループホーム ↓ ケアホームへ

平成十八年 十月一日
はぐるまが変わりました
これによって、どのよう
な影響があるのでしょうか

まず、既にホームは
自己負担（はぐるまでは
1000円～15,000円）
が生じています。更に
家賃も上がっているの
で利用者負担も上がりまし

た。（4000円）この負担増は、自立した
仲間たちにとって大打撃です。
そして
新たに施設が移行することによって
七五〇〇円の負担が加わります。前号で川
崎の軽減策で、就労型は無料になる場合が
あると、お知らせしましたが、区分認定2
以下が対象になることからほとんどの仲間
は該当しないことがわかりました。

施設は、移行によって、支援費増になりま
すが、悦ばない日本の福祉の現状がありま
す。「小規模施設の運営費が増える」これは、
実は逆行している表れで、危険信号！なの
です。全ての施設を小規模並に低い予算で
抑えるというもくろみが見えてきます。
この新法が施行され全国で様々な、不幸な
出来事が発生し、また大きな反対運動が起
こり、ここにきてやっと行政は、見直しを
始めました。

「美しい国」とは、「弱い者にやさしい国」
であると思います。行政の流れがそちらへ
向くよう、切に願います。
っと、ここまで原稿を書いている時、目に
した新聞記事

NO. 24

2006年 11月17日

社会福祉法人

はぐるまの会

広報委員会

後援会

川崎市多摩区菅馬場

1-18-17

TEL 044-946-1308

「厚生労働省の不正 七十八億円」

ブチ切れそう!!!!!!

国の財政難が発端で利用者も負担せよ!

ではなかったか!

本当にひどい!!!!!!

月〇千円の負担が生活を困難にし、将来の不安も招いている、仲間たちの生活からかけ離れた金額に、また職員の低賃金の我慢も……(コトバヲウシナウ)

「仲間の生活と命を守る、安定した現場が確保できる予算を立てなさい」

しかし

逆境の時ではありませんが、

時のながれは、

はぐるまにあり!

「はぐるま」は、誇るべき理念のもとに、二十数年実践を重ねてきました。

たとえば今、社会現象になっている「いじめ」

ですが 仲間目標の

「いじめない・いじめさせない」の日々の働きか

けは、**社会に発信したい!**

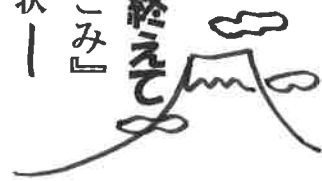
現在の仲間の姿が、職員を引っ張っていく原動力となると信じています。

誇りを持って進みましょう。

富士山麓 清掃活動を終えて

たかが『ごみ』されど『ごみ』

ー 人類の行く末を決定する現状 ー



地球全体で環境の変化による異変が起きてるのは、誰しもが知るところですが、身近な問題としての「ごみ」がその一翼を荷負っています。様々なごみが運ばれてくる富士山麓の樹海の中に分け入って黙々とごみを拾う仲間たち、障害を持つ仲間たちが、環境破壊を少しでも遅らせたい、止めたいという願いから、無償の行動をすることは、知的労働とも言えます。これをしたから工賃が上がるとか、ボーナスが出るとかではないのです。難しい認識ではありませんが、生態系が崩れるメカニズムを、具体的な事象から学習し何度も唱和しました。また、ごみの分別

の練習のため、多摩川河川敷や作業所の周りの清掃活動を繰り返し行いましたが、誰一人嫌がる人もなく、事前学習に取り組みました

当日

缶・ビン・ル・瀬戸物・ガラス等 出るわゝ
ごみの山です。2時間あまりの活動でしたが、作業終わり間じか、「富士山クラブ」のメンバーから、集合の合図があつても、活動を停止できない、ごみを発見!

合成樹脂の「タタミ」4、5枚、土に埋もれていたのを、数人で掘り起こしています。

その姿は、やらされている、イヤイヤの行為ではありません。

このタタミは、何年たつて自然に帰らない、有害物質を吐きながら、腐食したり、その周辺の生態系を破壊する運命にあつたものです。

「私たちは、富士山麓で、ごみを拾いました」と、胸を張って誰にでも伝え、社会貢献ができ評価をもらった、一生の思い出となるべき旅行でした。

今後は「たがやしクラブ」(土日の活動)を中心に、継続をしていきたいと思ひます。



新転地より近況報告

みどりホーム(男性5人)

菅馬場より中野島へ

新みどりホームがスタートして一ヶ月が過ぎました。メンバーの入れ替えと、引越して仲間たちにとっては、とても大きな生活環境の変化でしたので、環境の変化に弱い仲間たちが、混乱してしまうのではないかと、心配していました。

実際一週間ほどは、落ち着かず、ホームの中をウロウロと歩き廻ったり、なかなか眠れない仲間もいました。しかし、ホーム内の探索を一通り終えたころは、新しい仲間で本来の規則正しい生活が送れるようになり、今では、昔からの仲間のように、とても自然な関わり合いの中で暮らしています。また広い生活空間のある家での暮らしは、仲間たちの、情緒の安定にも大きく影響していることが解りました。今後も安心して暮らせるホームづくりをめざして行きます。

エピソードより

自閉を伴う仲間は、一緒行動が取りにくいものですが、決められた自分の個室を、自ら相部屋にし、就寝を共にしている。

自分のふとんを持って「一緒に寝ていいかな」と無言の行動を起こす。

それを自然に受け入れる。

いつまで続くか解りませんが、環境の変化を彼らなりに乗り切っていく過程で、大切な人間関係なのかなーとの思い、しばらくは静観しています。因みにみどりホームは、係仕事分担はありません。仲間たちがほほ生活に関わることはできるので、やれる人でドンドン進めて見事に調和が取れています。六人家族のようなものです。分担表を作ってしまうと、書かれている仕事しかやらなくなるので、今は「ボクのできる係仕事表」のようなものを作ろうと、進めています。

今回は

あぐりホームを紹介します。

新職員紹介

合わせて新企画も紹介

【原田 万里子さん】

いずみホームで、月・火・水に第2ホームで土・日 食事を作っていたいただきます。

土・日は、いずみ・第1・第2ホームの

3ホーム・合同の食事を、第2ホームでしますので、たくさんの仲間が夕食時に集まってきました。

加えて臨時の仲間も増えてきているので、多いときで8食ほどになります。

一人では到底まかないきれませんので、原田さんとは、食事の業務委託を結ばせていただきました。

業務委託？

はぐるまでは、初めての試みです。調理師の資格を持つ原田さんのチーム（5名ほど）がローテーションを組み、常に入

れる状態を作っていたいただくこととなります。

会社にお願ひしたの？

違います・・・

現在各ホームで食事を作っていたいている、職員さんとまったく同じです。

仲間の特徴や生活を理解していただき、声かけをしながらの食事作りをしていただいています。

いろいろな人が入る事になる？

いずみホームは基本的に、原田さんが入りますが、お休みしなければならぬ時、専属で内山さんが入ります。

土日も、ローテーションは組みますが、同じ方で組みます。

ある日

第2ホームの日曜日、田崎さんは一人で宿泊ですが、夕食時いい匂いとともに、明るいつ話し声がホームから聞こえてきて、おしゃべりに花が咲いていました。

いずみの仲間は、まだ入って間もない原田さんに、帰りがけに握手！

「ありがとう」の気持ちを伝えていました。

皆さん、短期間で仲間になじんでいただき、非常に順調な滑り出しです。食事もおいしくヘルシー、なおかつ安上がりと言う、難題をクリアーしていただいています。

初めての試みなので、まだ不備な事はたくさんあり、ご迷惑もかけますが、思考錯誤の中で、より良いシステムになる事に期待しています。

今後とも宜しくお願ひいたします。

